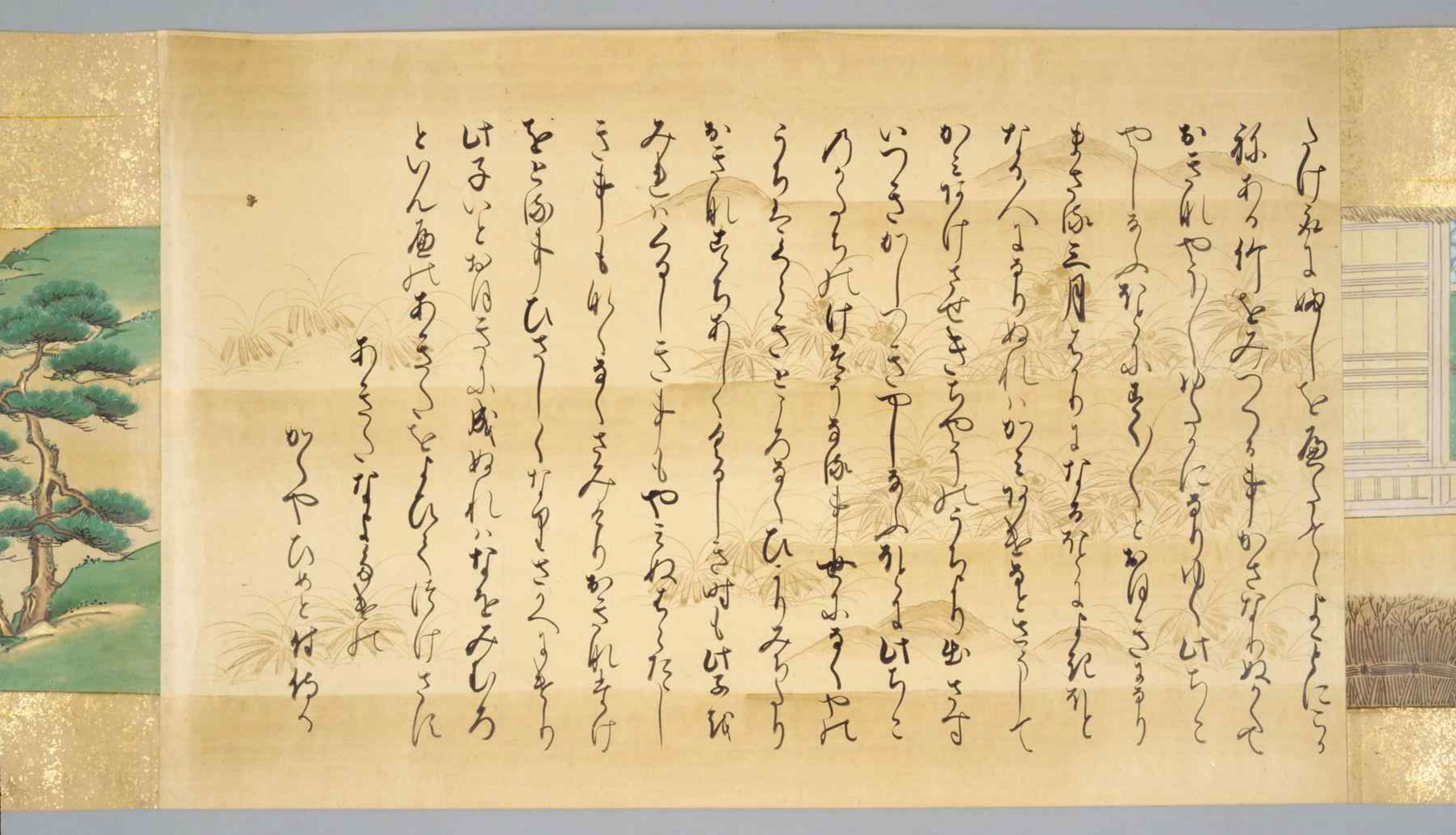
竹とり物語　上

特2
3
3

いはのあなにまうけたるかさねとりて
ふねにのりてやまふかきうみにこぎ
いでゝしまつたへまかりぬるに
名をたにさのさかやたちとなんいひ
けるをのの中ふかきひろさ
一ちやうばかりありてやりうてゝ
見ればふかき乃中ひろくそれをみ
ればさいとうなる人いとうつくし
てゐたりかさねいつやうそれなりとも
ふねにのりけれ中ふかきまして
ちわるくなりぬるに屋さ人まり
てふねうちつくるに家へこもりてきゝ
めれば女ありけて屋みたらひ川
うちさ中ちうりいとおそれけ
ればやまの竹とりれか
され竹とのよりけるをみたけてのち

東京図書館

ふけ年よ物ゝと角てそさとにゝ
孫あゝ竹をみつゝまめさかぬゝて
おさゝれやゝゆゝにゝりゆゝけゝ



うけたまはりてとゆるしたまへとこそはいとにうら
ふるまつのかさなりわたりてはるかなるやまのさくらはいとにほひゆくにけり
おさなかりしときにはいとゆくにけり
やしうのかなしかりしとくさまうり
まさかりのさつきのつかのなかのよるれと
なかめくらしぬれはかくもとさうして
かくもけさはきちやうのうちより出さす
いつきかつつきのかりにけり
ひとうちはけさはせふうくやれ
うちうちうちさとうちひうりみちうち
おさなかりしうちうちうちうちけふは
みもかうさうしきはもやうちたし
きまもかくすみうちかさなりけ
をとはすひさしくなりさうなるうち
けるいとおもふ成ぬれいなをみしろ
とりん色はあうちとひくにけさん
あうちうちなるまよ
かうやひとはけ

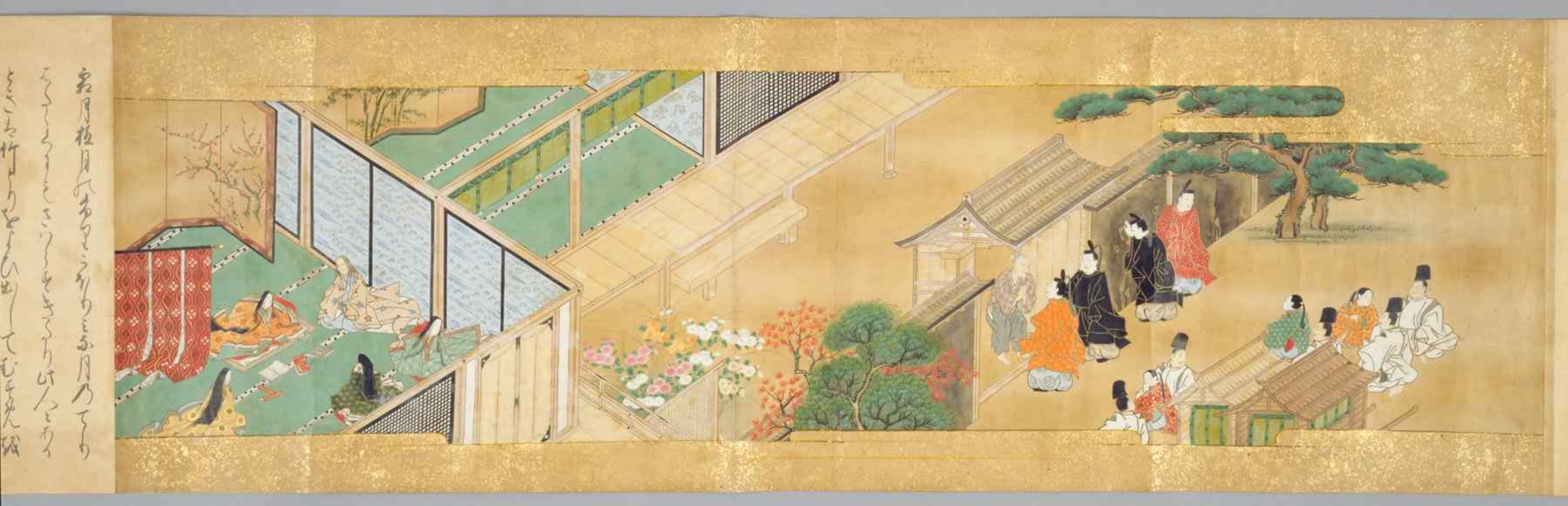
けふと三日うちあけぬるかの
ひとをそ一けうの御ことをさ
ま

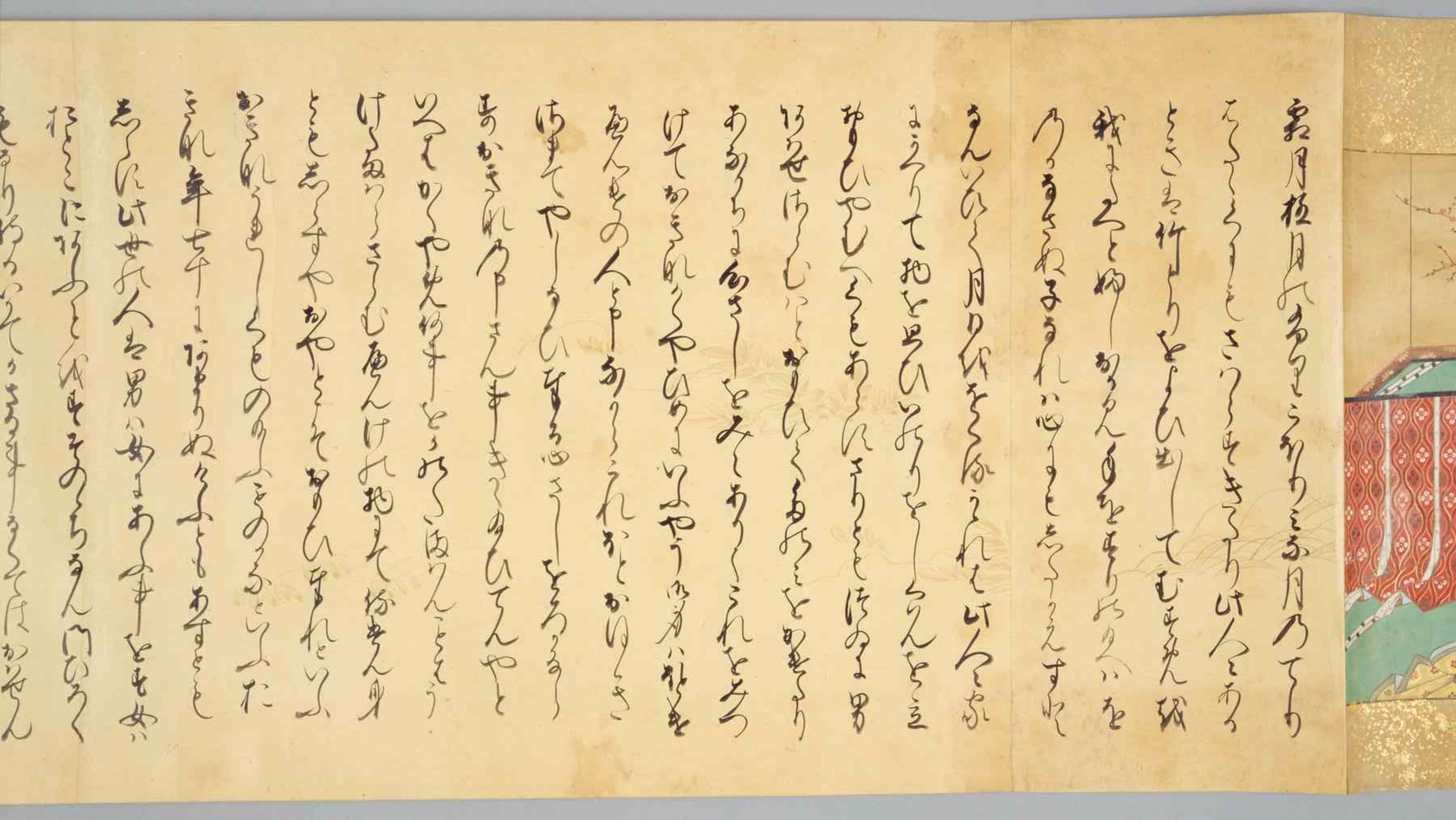
はしかと三日うちあけはてぬるの川のはて
ひをそーけるおもこそらをさすらへ
ひはるくいとうしくはてぬ世界の
をあくあてなるもいやーさもいそ乃
うやひ先をえてーうれてーかれと
をそにきてめてーはをのはるのの
のさすもあれとすもとをふたや
をくみるもーさこの代をはやをさ
いをもやこの秋をかーこをの
をさかひまるんまをいはるのさふをさ
ふをあんよをひをいひをを人乃物をも
をれ百よをまひあるをけをなふれをる
あをんをもをををふ物ををふ
いをんをいひかをれをこををれあ
をりををるれね君を秋はーをく
ら男の人の日うけるをなるひをよ
うをこありをるをはををそふ
を野りよをりを平ふをひけをを
いをこのこをいをを人の人ひやむと
をいををりをりをのれ君一人
ものーはをを沖をーをれ

よをあんじよとひとりいたる人のおもと
をねたるまゝにひあるとはけともなふれたる
あるこゝろにたゝすまれよ人ともふものをふ
いとんていひかれとこゝろにあ
たりをとるれね君をあはれ一ふくく
らの人のはうけるをろかなるひとよ
うまきありさまをうりはをそ
をはりよりをりをあはれひけるそ
いろこのことをいとゝ人のあ人はひやむと
きはゝくるをりきりをりをの山君一人
をいはゝはゝ沖をはゝ一人をとゝ
はゝ一人をたゝ大臣あるをゝ大納そ
一人をゝ大体のゝゆゝ中納を一人いをの
みのをゝるゝはゝをゝ世中ゝ
おりゝ人をふすゝをゝはゝと
をゝてをゝんまりうすゝ人あるり
れをかゝやひをんをみをりうて物も
をゝにおりひはゝかの部ふゆをゝて
すをありをれをもうひあゝをあゝ
をゝをかをゝてやれをもをををををわ
ひゝをゝをゝをゝかをゝすをゝをゝひ
とゝりゝをゝ

とゆりくとも

春月板月春月ふるとらすとも月乃てり
うさとてとてとてとてとてとてとてとて
ゆ人をゆ人をゆ人をゆ人をゆ人をゆ人を





[illegible]

[illegible]

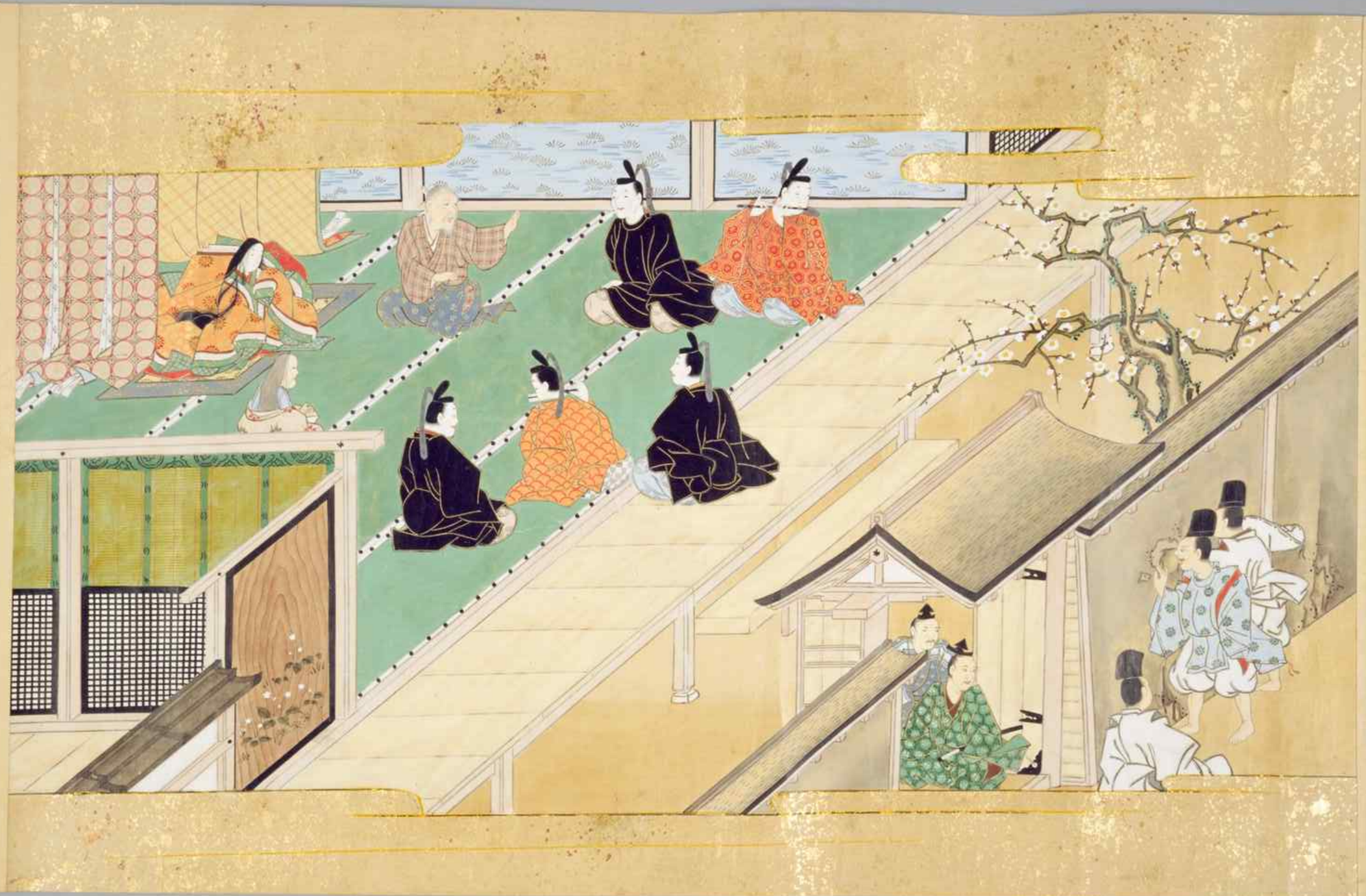
[illegible]

おもふれうもつくるものをのふとしてふた
とれ年七年ほどなりぬるふもあすとも
ゐるはせけ人を男はあるあまをとも女は
はるとにはるとそのちうんにひろく
もとりはるいそうさうまうそはかをん
うやをんのいそくうんてうさうまう
はるんとのそをんはけれ人といふとも女は身
をちうりあるれのはうんかきりはかをても
いまをうこのの年月をくかはをを
はまつのくまふまをりひさをそて
ひをくはあひをんやとはもかるやひを
いくをもあわかをちをぬきはをを
てあるんはをくはちやしさまを
あるををとおりをちうををせれかをさ
人なりともはをくをさををていあひ
ををうんおりをふをふあるれいをはひ
れをものをれをもくいうやうるを
ろをうん人をうはうんとかはををの
ををををるをのをををををををを
やひをのいをかはれあをををみむ
といをんいをかれまるををはをりは
ををむを人の年をはををのををみを
ををんふはをををををををををつを
まをんとをのかをををんををををを

人なりともゆきとゞまりていあひ
てとゝまんなりとゝふあるをれいとゝ思ひ
ぬるものゝふれるもくいかゝるまて
ろきなりん人よりかなんとゝ思ひをそ
ふるとゝろあめ人をそあをれかて
やひをんのいとゝかゝりれあるをみむ
といとんいとゝかれをるをとゝりぬるりは
ゝむの人の中よりをきものをみを
思ふんふ御ふるゝ思ひをそてつゝ
まゝんとゝものかをすんんとゝいふな
きをりとゝまゝ日をゝをれを書れなゝ
まゝれ人ゝあるひるをぬえとあゝ或いをを
ゝゝひ或ゝをやゝゝとゝあるひゝゝを或ぬ
きあゝをとあゝゝゝをゝゝをれを
いゝゝゝゝゝをれゝゝをゝゝをけるゝとゝゝ
よ年月をゝゝをゝゝゝのゝ年あゝゝゝ
ゝゝをゝゝゝゝれゝのゝゝゝふあゝと
ゝを思ゝれをゝゝのゝゝ君をゝをゝゝゝひ
をゝをゝはゝゝをゝれゝを

ゝをゝを

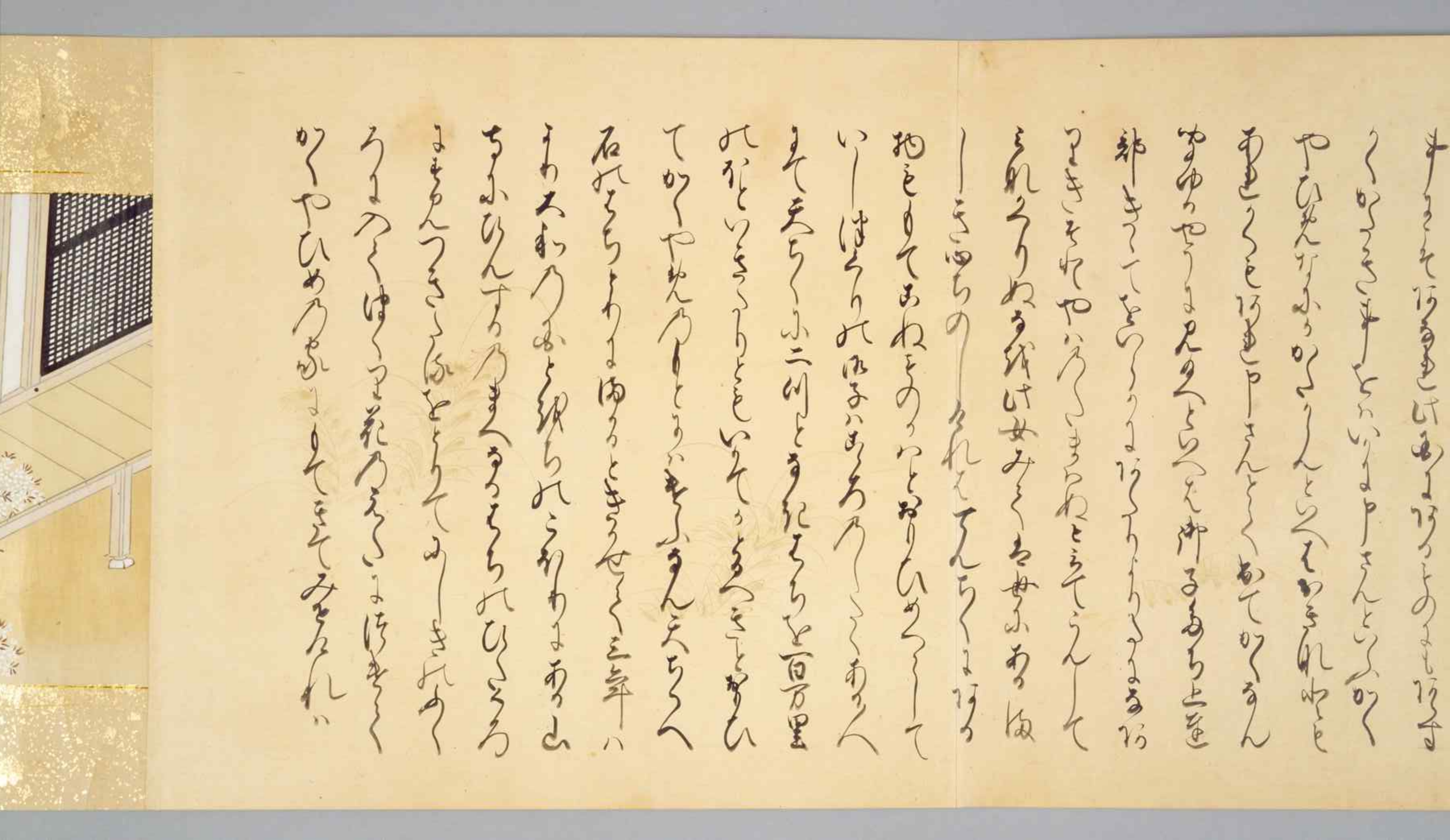
ゝり



いれをとゝまる世さかりかな

さくらかりとゝみゆるつゝもんもゝ

いれをとりあつめさせたまひ
さしのりをみゆるしつかまつれ
るはうんさうもいきとうをれさせ
たまへ人はうんもいかまつれ人の
人をもちまゐりといかさまいりてい
かやひえん石つりれ御まはの仏はの
ちちといふ物けりうれをえてのとうつ
ちの御まはの京の海はおちらとふと
あのなりうれは三つをとれ三つを
ちさとうちさもの絵みてそうは
けりそれ一えくかりてそあるうんといふ海
ひりまはこちらうまあるのあれすれう
されをのえ大仏の大納ちまはの人の
あをはひ所むりうれをとりてうきく
いをのうれ中納ちまはいはうをえんれるか
うやまれ貝とりてのえおきれうさ
ものうきけるもけあるのうのもけす
くかうきものといはいはのさんとうかく
やひえんなかかうさんとうをかれかと
あまうをけまのさんとくあてかくうん
やゆうやうはんのえとうん御まあち上座
神きてをつりうりはりはりはりはの



ゆきてとまりけれ
ばかのをとこの
ものいとあはれ
なりけれとこの
ものいとあはれ
なりけれとこの
ものいとあはれ
なりけれ

かりそめにうつしてみるいろもかな
中ふみをうつしてみるいろもかな

かくやひめあやしうてみまいらせれ
ば中ふとりひろきをてみまい
うまとしみちよりはるかにとしをへて
おもちろのうるはしきけかくやひめひ
ものやうなるにわらはやみにわらはたち
ふす

をくらはのかみのひとりをこにもやとりて
ぜんしんしてすかりもうん
をそれやいまとしをへてけふより
ものとなる

ちりぬるあとをしりけるかなふみて
ちりとすてしものをさうふ

とよみてのちりぬるやひめみしもまた
ちりぬるとしをへてこそいひけれ
はるひてえりわかのちをすてゝみひ
げふりそめうまをいたちとす
つとちりけるこそのはるをたてえ
りあるへしてあるけのはらうれあ
るゆあるまはんとていはねやひめ
のあるまのちりをとりようんまりとい
きくちりのよはるまつるきんと
みかはなれてをまてれをまつて

ちかうまいりておかやけのおはしましけるに
よゆあるまじきほどにんとていそぎはてゝやがて
乃むかふむかへとりよんまうといえ
ども　くくりのよるはうまつるさんと
みふ雖後まてれをとりまをれるいわて
さのひてよのおとをせて人をはまこのそか
りまをしたちうはうまつかをりして
おのひれをとりれ人をんをわたくさ三日
つりけりてこをのわかれくとみる作
ちわれを時一川のくりけ返
うちあくこ六人をゆ給れてよやく
人をちまをこをたをてあくをはりて海を
こをふしこをてあくをへすしてれ
子をあれとくふこをわのひくを
せのひくをかをり十六を紙をんふくをを
あけて乃をえ紙はをり結かやひ光
ちのふやうふあうはつるおいとう
うあくりくなふをたみをふを
て出あふかりてくりきをりと原ふ
はけやりていをくくをうあ
やくして原のくりむくよ人おくまり
あわ乃をえくをはまひいよいをを
おのひくくをてまつるつまをんくを
ちの御子をうくんて忘れ花おくのか

やうにて所をもとむるに人のあるべきまう
あり所をたづねんとはすれどもひのいとまなく
おはしましつるうちにてまことにうんんてあだ花ばかりのか
ちの御子をうんんてあだ花ばかりのかりをかりやはな
まもりとりとりたりとりかりをかりやはな
きてて我ものはなるふまけぬつとしも
はれておりひとりかりかりふにをた
たきてたりのりのはるおつてりて
はく旅の御子をうなりかりより
とりてあひたりはるの御子のはるいはち
をすてかりおれてるおくとてとて
かりやあるとをとりをつてをれ
をとりていりけりものをとりをつてをれ
そつをりけるる
いりりよりかりをつをりりの
をりをとりてをりふりをりの
れをもなりれもりてりふ御をる
れをりをりつりりをりりる御をる
りりりり

なるぞとてとうくとよつてきたりし御せ
うくあつわるかりけるものをもて
ておりまいりたりやはるまあひ
はるまいりたりとゆふてはをいたつ
らえとはさていそくくうまをしはふ
おさひあはるはるいまさえうふとゆふて
をとゆまにえんふたひのりまれ
おさされはよおりふはまるとれむれ枝ふ
まはは度さいそうゆふひとさん人様もよ
さ人よおもはあれひまりかやはめ
のりふやうあやのはまをとうまうり
いなひとさんものいとかさまれうと
さもれをかあさまくうてをうと
まを移くかりひかさふは移やれう
ちをうくひあとをおされはるふとやう
ゆうあるはるはは木をのひをんあやし
くうはりををてうれはるれとは御
ようてのくはうくさかくれ二月乃
移ん方ををくれはをまを
なて世中ふいをさ行てせんとかひし
うをあむるをさ風はゆをくはりを
いはうををいはせんはてはんをうり
くはりをてはうをんふるとはや
と御ようをさあるはひはりをて我ふ乃

とそ申むすめ風ゆをくけりを
いたちをいてたせんさてけんさり
くけりさてかうらいというん山まけれや
と海よりさ毎ひけりさて我ゐ乃
内とをれくあり毎ゆりまある時を
なんあまつうさのうさを入ねくを
時を風よりけてをねゐゆをさせれ
てかふ乃なる内あ来てをろさんと
さあ内ふうかりすををてう
みまをさんとをはよいてつきて
まれ祖ををひをのをあ内いをん内
をくむけあをのきてをひかて
をんをきけ内みをいをとりて名
をつをひのをふ毎ををつきを人
をさ有をいをくれやをひをてり方を
ををくれ毎りまをくうをたを
ひくを百日をいつ毎内けりま
うを中まをうを山みを毎内をうを世
をををうを毎をを内をいをか内
さをけりをふ乃ををくをうり
れやををむをを山ををけをひてを寺
ふををくあをて山れをりをを
めをて二三日をけりをを人れ
ををひをを女山れ中をりあをてをろ

れやわすれむとおもひて寺
ふるさとをこそおもひてふれそとて
めくりて二三日ありけるに人々
よりわひ山ゝ女山ゝ中より出て
るのかれまとをとりて水とくとけりく
れをみくみやりわすれてこのはなをは
とゝもとゝふ女ゝくいとれいなるらい
の山ゝとゝふ女ゝゆよりもまされる
ゝとりは山ゝ女ゝくはなまれるて
とゝふわれをとゝのかんなとゝをゆとゝ
中よりわれはの山をみるふけるのをつき
やうすゝをゝ山のゝひとゝをとれて世中
ようゝ花のあゝもゝしゝりこゝろ
なりをゝ水山ゝとゝ出ゝるをれゝ
ゝのゝ乃むれゝゝわゝをりそのけりり
てわのやゝあゝもゝしゝりをゝ山ゝて
をゝてまゝてゝわゝをいゝまゝしゝ
ゝゝのゝひゝよゝあゝゝゝとゝ乃
花をかりてまゝてゝゝゝゝ山ゝりゝり
ゝゝおゝゝゝゝふゝゝゝゝゝつきゝあゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
四百余日ふゝんまゝてきゝゝ大形ゝ
や耶波ゝゝゝきゝのゝ百郡ゝ由ゝてゝゝ

[illegible]をおりて[illegible]
ぬりとまりて[illegible]ありひ田ぬきく
ぬ百姓ふ[illegible]ん[illegible]まうてきみ一大勢よ
や駅ぬ[illegible]ぬ[illegible]ふ面部よ出うてをつ、
ぬ[illegible]ふ塩よぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ふぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ色
なてゐん[illegible]ん[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ

けぶりの文をとれといひくれたる文のうちに
やう御子の君千日いやしきこゝろと
ゝろとかすゝ一百よかりまものひくかり
こゝろをのこゝろをつくせのひくはこゝろも
ゐまいつゝむと仰ものひきこれをけはいんすの
ふ御つゝひとかゝつゝまつゝさかりや姫れ
ゝゝゝゝゝふりひゝゝひつゝゝゝゝわゝひさう
へゝかゝれとゝひゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝの米ゝゝゝゝゝひつまゝゝあゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝけゝゝけやゝゝゝゝを
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ものゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
海とかゝゝゝゝみゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ

かたうまへせしをうんとせかれやめよ
ひまへくらうもしさんともありとうひく
うくいとあるくとせのこまくらくく
まろこひてありひつるやうもあるれと
いひくゆるたまてくらくちれ御まちれ
なうくまてそのうえせのうくえうひ
をすくみふりすすせのひくけもて
まをうせありかくてけ御まる一をやうれち
もまるいあくしあせすありぬのく
けすすて天下れ人のあもうんまれうく
きまとなひてくくいはあくやまん
いわのわをつくさあうぬ人くうま
をわうてまんをれと御死ありし
しのひまんゆをけたけなあは
子乃御信ようくしをんとてやしち
みえのいさりまるりをれをなんむくう
ようひてくしめけう

そもそも反言葉

中

M2
3
3

左大臣殿の月ごとにまゐらせ
給ふ御ぞうさ人々をおほせ事
さたありけれども船のうしけいと
ふ人々をとりて又をかさて火鉢をの
かたをいつくしくぬりてひくをせさせて つう
まつる人の中に伝多しうりをえて
ひて小松の内さきりとりて人をほけて
ほうびたまはせていつくりはうこをふらう
けいし金をとりて すわうけいあるをひろ
をくみくだまをかをを火鉢すをれかは
うろもは國はうきりのなりをとはき
けとをいまをみれおなりせよあるれ
なくけおりもをほうてをれをれ
いとうをあをひなり三れとも
り天ちくはむけうをはりるく
ふをを人ちりをひとりをんふ
なををのををを使をうをく金をは
ふをなんをりをりをりをりをる

のて小林のゆきやりとしよくをうけて
ほうらんをていりはうこうをふるう
けいり金をとりすわうけいあることひろ
をくみくるをまかを失孫すこれかは
こうこ山國はうこうきりのなりをとるはき
けとこいまこみわれなり世よあこれ
なこけありもてほこてこれまり
いとこうこあこなひなり三れこも
り天ちこはこ山ほうこてわりるく
あこ光八ちこりこりこひとんふ
なここのこうこれは使こうこ金をは
あしなんこいてりかりろこりる
ここりふ林八あこりまこてきこれこう
めりこいまこはまてありここうこする
をりてこりらせんうこさせのふ時より
こるこのりてけるこ

七日よ

きこて

きこふ

又紙ハ国ゝ之内ハ
して人を出してもてなすいまハ世ま
をもしらぬ世なれハけかを衣多やひく
なきものゝ中ゝ
ゑ乃ゑ
けちあ乃山ちふあ
けよりて
ゝひ乃金ちゝ
しゝ
あ千あ
をれを
ちゝあ
ハをいま
しくて
のゝ
きわのゝ
ゝきゝ
わとゝ
ゑまは
たゝゝと
ものゝ

つ　まきるをといろうえてけくまりおんき
わをとりまはうんしやうの多りけのを
ゑまはこうのひりーさやそそり
たりとりてうほりしさまりしあき
をのうり火まりけぬまりもけうろう
まうそうりりうへかりやひんこのそ
りりおふまそまけもとりくまひくりふ
しこそそそまへのひくこのえそに
りけて御身れけさういをいそしてり
てそまりうんをれうりおはしてうりん
そそりくそそいまりそりうれうそを
かうりりおりひまりけねかそうと
たりかそさてりふこそそきん
とりりあれりまりてりてりて行ね
出さてりりのくかりやひんまみをりや
非りかを衣みそをうほそきかえまり
りわさて海そりのかをうんそをんに
竹ねうをくいそくりもあまりもあま
まりりへをりんせ中まりあをえ
をれりの海りまいりれをりひ行ひ
人るいくりひを衣のひをせのふれて
ひくりひすくそまりりりりひすく
てけ度いかるりれあうんとれんをひ
をりけりかれいかくやひめりやりんなか

人るいてゝわひさをのひをもをのふろて
ひくゝもひすゝてゝまつりのゝひすゝ
てけ度いかるゝんにあうんとおもんゝもゝひ
をりけわゝされいかゝくやひめやりもんなか
とうをゝうゝまゝてゝゝ人ゝあゝをんゝて
ゝひをゝれゝをゝうゝふいをゝいゝゝまゝは
えをゝひわゝゝゝとりなりのゝやひめおゝされ
ゝいゝゝくけゝゝゝ衣ゝ大ゝゝやんゝはけすゝを
ゝてゝまゝゝとゝなゝ先ゝんゝとゝゝりひゝくゝ人ゝ人ゝゝゝまゝ
ゝゝを酒けゝ先ゝをゝゝるゝゝゝおゝゝゝれゝゝれゝ
ゝゝゝ

てもきこえなくなりぬれば
ものとはなけれども人はいとも
ものとはなけれども人はいとも
ものとはなけれども人はいとも

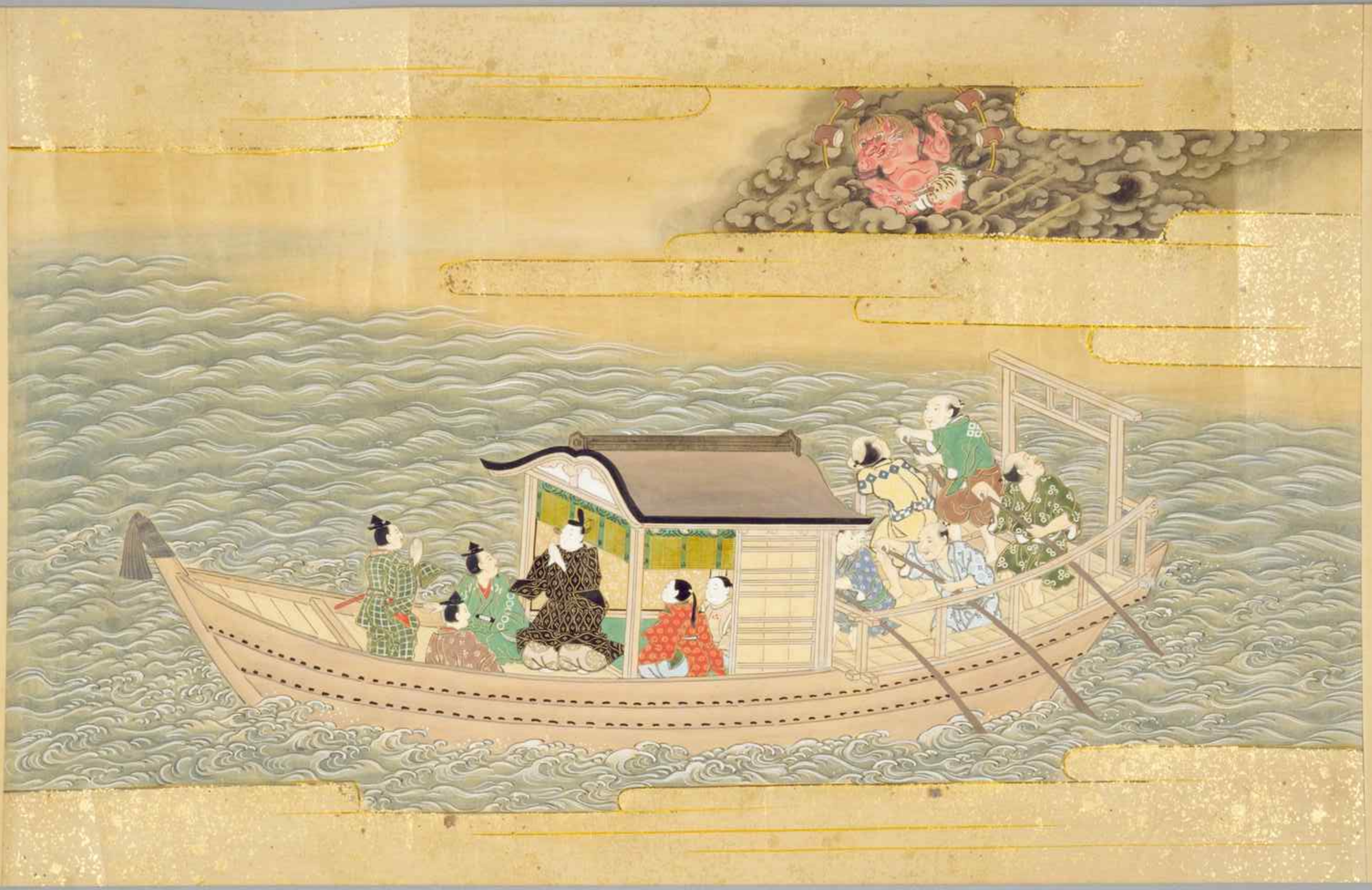
世乃人とあつれ大臣少将すとのかそ衣
とりていまてかつらやひめすとまふと

世乃人とあへれ大臣央孫すこのかそ衣
とりていまして かくやひめすこ手ふと
ふまてやいまたをとこ ふあるを人へれてふか
そい央ふるくやこ さらしふわ〳〵
とやけふ〳〵ふかくやひめわひ給へすと
いひけまてこれをもすてそけるさのと
ひけなくとよ大伴乃ゆさの大納て
さ多川のくひる文をのひりわむわふ
ふるまをそてなりこん人へのいねうん手
をかうんとのまきこのことを伴の手
を御くやさく伴のまをいとをきう
く伴去乃むを多やすねとくとくん
や多川乃くひれむいいくいちんをの命
をすてもをのこ人へのつひてをの名
れ御世手をいさるへんとをへけまけ
まなさてんらくもこのわをなに
けむれ海ふりちいをりのをわるいく
ゆりひてくえんらくかくさ地をつきを
乃こをやうさこいくまちんてきき
このなわをも伴手ふくひくもをんま
内てんとをる大納をんをひてをんち
らく君乃枝と名をもつ君て伴手を

乃ことのはやうさふいくまきんてきの
なりとも仰事はさらひくもとんは
内ゝんとは大納言ゝひてきんち
ら君乃世と名をあらはす仰事を
ハいくさもくつきとれのよあ川乃ちひ
れむとはそおしてのふけんて乃
百れくてそちひものよあれ内のけね
ちくせよあとあつかきりみも〳〵て我ハを
らんけむとはえていかるかつくふよの給
ふあ川乃ちひのむちりえすふてひけふ
まちくるとゆ給ふもちをあくゆ給を
あつてきりぬ新乃首のあなえすれ
ゆりられとの多くていつちをくあ乃
むちくらんのくへいきんをもくれきき事
をふかふ事とそありけくて給をふ
物をのくるけてあるひちをの歌ふ
こゝを君或ハをけくゆきまりさ所百
いね就君とはもかくつきるさ事を
おけせのふ事とまれゆるねゆゆ大納て
をそ〳〵まあひくはやひんをきん
まハきいやうまの乃ん
ら除くさをけてうる
をゆりまれ給くて

あるてきりぬ彩乃前のうあるすす
ゆりられとうの夕をいつちをあり乃
むさうん叶ふいるんをもて紙きき事
と志のふ事とそをあり乃うて紙をて所
物をのうけてうあるひをとの彩ふ
こうを居武ハをけるゆうまり一さ所色
いね就君とりをもかつてきるさ事を
おけせのふ事とをあれゆうねねゆへ大紙て
をそ一里ありひうかやひんををん
まいまいやうのハ乃ふとをうまひく
う所つうさ家をけうりすりてうり
をゆりまれ絵して乃りるひくやれ上
まけいをうえて多く物をくうられ
志つうひふをいつうあくもけうあやをり
物を志をうきて四ことをあうるをもとれ
めとをかうやひめとかるしたけんまう
きしてひをあうくうをひつう
人をふ所ひうまをたまのよ年こゆふ
よてををせすをりとなるうとていと

三ゆひく



あくと称り二人より
乗りて
しもひろく跡の色よりおよ

あくと称り二人のりつれまして下つ瀬
さまひろく瀬波の色よおかしきまして
とひのふ申ハ大使の乃大納言殿や御ふ
ねりて五川ろろ[illegible]て[illegible]ひの色まき
と称るとやゆめとと[illegible]すふ御人ろろく
いろくやしろ申[illegible]れとわくひくさろ
わさす除紅もるとろろふろをちる
なろ申すろ御人ろもあれろえろて
かくいとかりてわろてかろ色御あろ
ゆといろろてろひの色いろりてんをそ
ろくろろふや川ろろとまろとのひて
御ふのりて海ろふふりろすろくいて
をろてはろ方の海よろき色のふ
いくしまんろやろ月映世界ろりて
御紙海申ハ海ろきりてはろくうまれ
方ろもろ[illegible]海申ハまま入めくゆき
まりて波ろ紅ろうろけつきき入
神ハ海かろやろよりのろかれり
大納ろまきひくまろうろひき
めみといろんとすろとのれよかろ
ろくくやまろ御ろてゆろわく
よまろかりひりさめとみをこ御

神ハ海かたのやうなるものなれ
大納言ものもとひきまゐらせ
めみていはるんとすることの
ものなれ
ものくるまとまゐりて
よもすがらかわひ
うたうそうふいてはかりぬ
へしさいたしふ神はあまをけて
海よりれおそしぬうてをの
みりにはうまりてすゑ
をすへうかれと掘れる大納言
やすての弱くみてい
ものよりていかりより
ものまをそうとあれなとく
あはしけるものをつ
さてのみかれてものを
行わさをはうまんはあさをを
しけもとも神さへいてはかり
ほやうるい弱をとろさんとも
あるなりやてもつ
神はいかりもとい弱手なりとて
元神神きこ
あれをろさんとおりひりいまを
ちもをもちをふうこ
はとをはてるこ
めまをけりけ
やうく神りやとわかひりて風なな

さてのち　かの　ちゑ　ゐて　ゆき　ぬ　○

行わさてのち　ほうこう　まんぷく　ゆき　ぬ

しけ　ども　神さま　いて　ゐる　ゆゑ

ほや　ろう　ろう　神　とう　ろう　さん　とも　ゑん　ゆく

あつ　なり　ても　ても　ゆき　ぬ　ゆき　ぬ　ゆゑ

神　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ

ゑん　ぶん　神　きう　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ

ゑん　ぶん　とう　ろう　さん　とも　ゑん　ゆく

ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく

大納言殿乃ち函ふゆきをもてれう
ゆかんとおりひくゝつさはさきのち
あまあるものゝこともあるつけられ此も
ふのつきまゝてとゝ袖もえかさな
ゆまをみまて風いとおりきゝ人うく
たゝいとふれあるゝこの月あはすま
を二はけゝるやうりれをんなりて
そふのはけゝをもおりあをあはは
てゝゝつらせのひくゝやうゝり
みゝれゝあるよ入ひわをいてきくん
つゝしをはけゝとゝもまゝりてやうゝ
乃首ゝむをえとゝゝさわゝえ面反つを
えまゝゝさわゝむれゝあかゝゝゝをを
ちわのまゝいゝんゝかんをゝあゝゝまり
つゝとゝ大納言あゝゝゝあてゝゝはゝゝん
ちゝゝゝてゝゝ成れ給いなゝ林のゝは
ゝそありけまゝゝまゝゝむをゝんゝそゝゝ
ゝれゝのゝいをゝまゝんゝゝりはゝて
あゝをゝゝゝきゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝいをゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝひゝてゝゝゝゝ宣人乃ゝゝ人をこ
ゝさんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

あれはとくつきまとうてみてもれくるあ
さいをくれるまゝにそこをそうさう
ひやひめてよかりや堂人乃やれの人をこ
ろさんとけうりうのはりまの今
をさんゝ男ともふうさうさてそ家
よそうのそうあつけふゆもしいあれ
むをとゝねとのもまたひつをとやてと
まれはひゝをとのとの上をかくをいてく
をひをいとをゆをせはくつまゝやい
をひくをものすをみふをひをそいよをう
世界乃人のをけうをいた人仏乃大仏をに
乃をひのむをりておかりゝをいれをも
わゝに神まをここをすをおやうをれ
むををつくいまゝをひをまいわふ
ろむををつくいまゝをひけまいわふ
をへくをいひをうをもせをあらわまをい
はれをへくをといひをゝをけう宗堂
いをのをんのまをろををつをつををの
ををのまをにはをくをれををひをは
つけををのをを西つをれをなをれやをう
あんをやをこをてのをのをやはををあ
ゆをを西こやををいをとをんまをうなをれて
のをまをんををけをこををくをドはをう
先ををあまをこをゝてみをくをはをく

おんとりこうてのものしやうはそこ
ぬもあらやをそういもとをとこんまこうなりて
のこまふをとりこうこうとはそこ
先をあまこうこうてみるこはこ
なこうのもりあこうまらむはるんいこ
てこうこうこんこうとこんこうふみまいこうまねて
ト又人乃ト中あかいつこうこいひこ
くやりむるはこうこれあれこにはここ
先ゑまをこうこひ行こうれこまんるこん
とのこことをとひこくゆりてあこうこゆ
ひはまこうこうこうせんこうこれはここあ
みこうはこさこんやゑこさてこそこここのこ海
ハ先こトト中納こここうこひまひこくこ
こまこまここはこうこれるれこまこえここり
こりはこうこまこトこりこのまひこくこあ
なこうこのこことを先人ここりこりてあ
ここひこはこはをすここまここり海より使
ひまこくこあはせこくこやこのこひここ海
れこむここせこの海はこここめこをひこのあ
まここのこりこ海こうこりてこすこにこのこり
ここはこここここのこここトこれ海まひ
ていこくこすこここおこりこわこここよはこつこ
此女人こここ海こトこれトやここを
貝ここんこおこりここここはこ海ここりトこん
こて神おこまこりこれこ中納こひこ

ぬぎ人くつをとりかくされやうをも
見とうんとおりゐるさはぬとりやさん
とて御おまいりされて中納ひしも
とあるせくもひまとりくはまろや
やうのつくりくゆんうやを見をけく
あてうりてとせのなりさていえとせ
ぢつあるかなしいまおくろくしくかへ
のかりて行れてあまてちまてうす
なりをさせくまつさやういはけすひ
とうをくくんれちうまてまんう
む人一人をけくたのせくはるを
うまんくるのうまんうつるをけり
けをさせくゆとうやまうひとをせひ
あてよりうくきとや中納そのくまやう
いとうさまなりてあるひとをそ
人ふうりまてきわ中納をくつ
九よのくまくはくあいりなる時
うみとうむとおりて人をいくつきわ
のくまくくつ九やはくくゆ光子
うまんくう時い尾をくまて七度めく
まてうんうんなくにゆうねとうせ
ゆとそやまう

中納言よりつぼねの方へ
行つくみそかにはさきたちてとの

中納言ゆきひらの方の人をもとめて
行くへをしらにはきふいきしてなを
なほ中よりもとをひらにふ
してさしぬきをもかくしをも
いといたくなやましてはきまつらよつ
なくなりぬとなやましをかすめる
ひとをもとめさせたまへとて
かつけのふしにさしたにたちけつさに
きまてとのたまふてつかさ日をわれい
はつさまおりて見かへるまつ
きつもりやうかうもをく
ものわせてはりわけさ
きくつえをもをさへさせ
てさるふ地よりとゆ中納言たく
さまてなきなりとをもてれ
をりかえんをとて我のりてさうん
とのひくこのりてはをもりて
いてをそひをるはさるはけ我をき
をとりいまはてよわをれをそり
とのひくはつまりてくをるさんて
はをとひをさをてつふをあれするら
やし夜れ色のうけ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

それとはなしにあふかひなのわさやなに
のつまひとりそなりしまさまをハ
ひねもすとひけるかひなしとなん
なほひけふかの神たちも哀とおもひくらし
やすらへらまきのふ毒をけちをの神
勝負おはまとりの中納言をいとけな
きまとしてやむことなき人はきをと
ちまひそれとうきをとやとひていと
よくなりまひとりうしをとえとしん
なわよけふもわを人のきてはちんまを
日ふとくおりひまれをあるやを
ちあるとりを人きてろくえてのふ
なりとうれをとかくやひきてとひ
ふやの三の

年ゆくはるをわすとのはは
まつひとをとを海とり
とのをてをつあ入なひあれをきて
かくやひ光すをはをれとおはをそう
うまをあんうまををををををん
けりをはいひけふをてやひかりち
世ふ似をめてをきまをみをはきう

とかをそなたにあらそひ
かくやひ光すくしけれとおほしそ
うまとるとをんうまつきまをたうし
けりとはいひけるさてわるやひかりち
せふ仏をそてうきまとみわきう
めりて旧仏ふうとうの乃ふきこゝの名た
かくれ人乃身をいとうまるてわれ
さほかくやひかいかりれ女をとゆり
みくまつまとのあきこうけ者そ
まう神りうまとも乃ふかとまく
ちやうしいまくなりり女ふ旧仏ひ
仏まかくやひ光れいうまおそし
かわくみてまうをのの名せ
つうふをんまりうをいくさふかく
ト仏をんとしてのわかくやひかちか
ム神仏ふまいかんう名をかくや
ひ光ふきかくちりもけるいそうみゆ
ゑをとをそうをものくまりふれ神
門ち神つひをいいそうをうをんと
いくかくやひ光んのくふ乾やは門ム
めりてのくまりんまかうえおとを
ちかいひくさくにんゑくもあしむ
光ふるムやうあまをいとんをうけ
ふをうふうやうふうひきれ心のまふ
をえせめをふいくのまにかうせく

ゆかんといひてのがれかねやひめちやか
れ御供まいらんとて給へとなくなくや
ひ先なるかちもひけるいそぎみゆ
るるとなくうてもものくるまふれ御
門より御つぼねいそぎをろるをんと
いとくかくやをんのうふれやすれば門
やしてのくるまをんまかうえおとて
ちやせいひくさにはんあるにむ
先なるよりやうはあまとをんをうけ
ふをうるやうふひをれ心のまふ
もえやをふいりのうちにかうり出く
ロかくこれなるきあのこらゆう
よりて参いんすまをとりまい
しかるに見なりて思れと御とる
をつるおとをみをていそゆ参ん

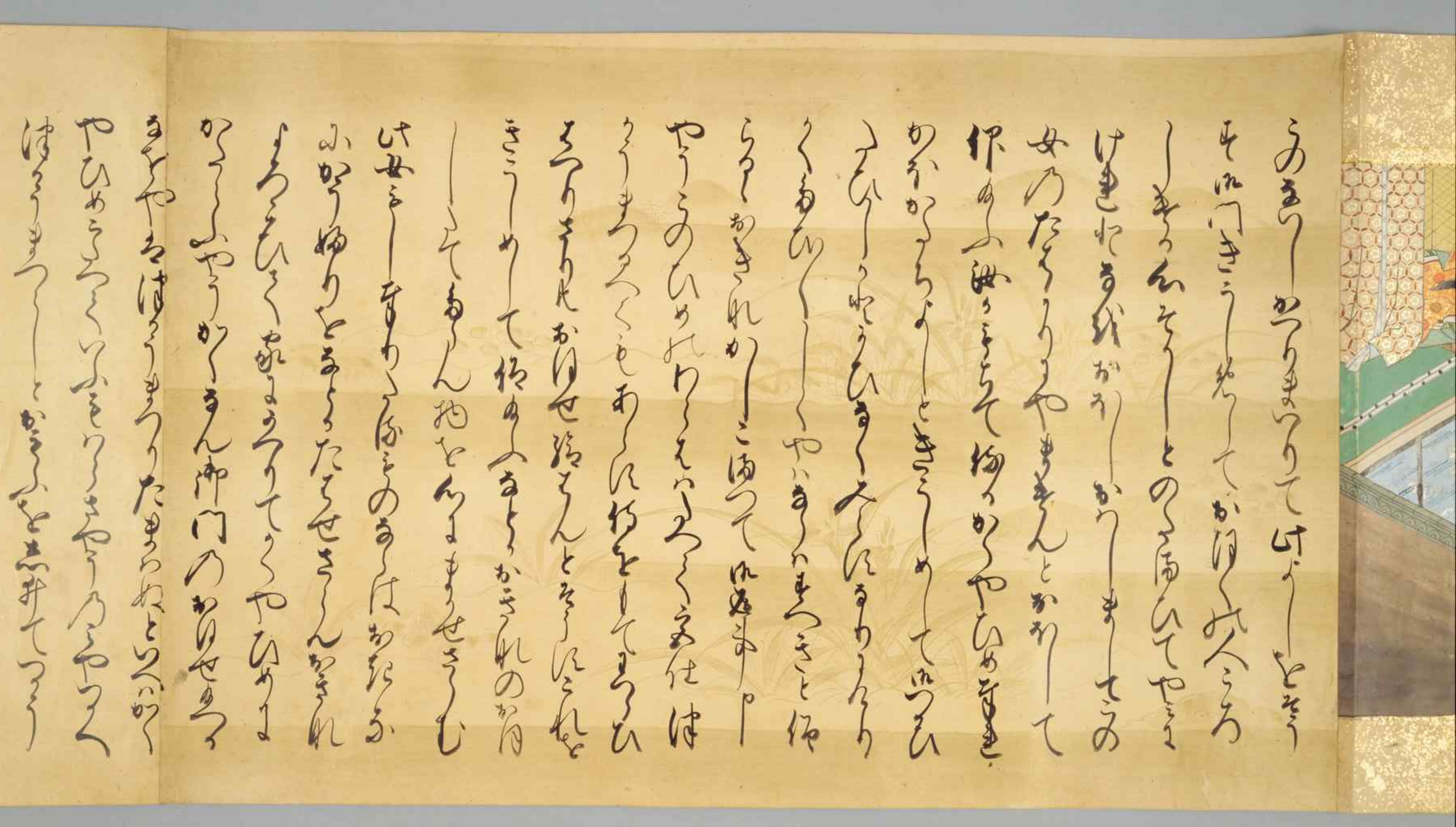
面白い話 1

112
33
3

國王はおかせまとに世ふすん
給りん人乃子ゆ面ゆくゆくありふんや
いとまもなくしてひとことをいし
くいひはまいれをきて内してく
やひあはつくもあれ世ふれ
ゆとをむそはやうろ給くよ
うとふ

なつけをを
そそて
そそて
そそけを
そす

うきてけりとそう
それへさうしてお



うきよ　かつらまつりて　はつ　とき
それ　へ　きう　ゆ　てい　おは　ゆ　ゑ　ろ
しき　ん　そ　と　の　ひて　や　く
はま　れ　ま　ば　が　ら　ま　せ　の
ゆ　た　ら　や　ん　と　か　て
ほ　ま　ら　ま　て　ま　ま　ま　ま
か　ら　と　き　ま　て　ま　ま
ひ　ま　ま　ま　ま　ま　ま
く　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ら　か　き　れ　か　こ　ま　て　ま　ま　ま
や　う　の　ひ　か　ま　ま　ま　ま　ま　ま
う　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　り　ま　り　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
さ　う　か　て　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
し　て　ま　ん　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま

ちゝをひとくるまよりてうくやひかる
かくしやうかくしやうん御門のおせつ
きとやさはうもまつたまられとゝいかく
やひめうくいふをつくさやうのやつく
はうまつしとおうふと云井てつう
まつせあまつきえうきうんすこた
んつくさうゆりはて云れたりうを
おされいゆつやうをひそかゆりも
わるとんをてそなふうせんさいあを
ゝもうゝえはゆくとゝ弱いさん歌ふ
つくやうやあつくさとふなくゝとう
わはうまつせてふうすやあとんてまく
あまゝの人のんうゝとろうきゝり
をむうくうすてゝうあまきのふ
けふんれのうの海ゝんまふはうん人
きてやさゝとうくあきふうくゝふ天
下よまいとかくゝりともは命れあ
やうさゝをおうくさうさうりまれいな代
つうまつうきゝまとまつてやさん
くくまつてゝやう作のうれりこさに
かのわふをはいつせんゝそつうまきを
えつくゝりさそおりれ面ゝう
ゝやつゝかゝうませたうるまそをは
ゝすむゝそんゝ有ゝうかれいんゝせ
を世のゝ人ゝ似ゝうゝつゝうゝせゝ寺は門

ゝくまつりてゆやう作のゝれりしさに
かりわゝふとはいせんとてつゝまれた
えつゝくすりしてかりねのゝ
まつとゝもゝうませたるゝまてをは
ゝゝしてゝゝゝかれいんゝせ
を世乃人ゝ似ゝゝゝゝゝゝゝ門
おもせゝゝつゝまつゝゝゝいゝゝゝ
くゝりれゝりみゝゝゝゝゝゝゝて
ゝゝんやゝゝゝゝまゝゝゝゝゝゝゝ
やゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝて
むゝゝゝゝゝゝれいれ門俄ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
みゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゆきけて　ゆくとて　めくらつ　ぬうんて
すうふ　ひくや　ひんうん　うう　ゆう
ゆ　ひけ　ゆ　ひめう　まれく　ゆく
うそ　ゆう　ひ　けて　あいと　めて　たつ
うう　ゆう　ん　うう　れ　門　ゆう　さう　む
なと　めて　おつ　ぬ　ゆう　ん　て　ゆう　と　せ
ゆう　ひけ　く　ゆ　ひ　ゆ　ん　う　う　け　よう　なる　ね　て
ゆく　う　ち　ゆう　と　ゆう　て　け　よう　人　ふ
あう　さう　う　う　と　ふ　け　て　ゆう　い　れ　う　は
め　て　い　う　う　う　れ　ゆく　う　と　な　と　ゆ　ひ　る
う　ま　と　み　て　う　ふ　う　う　ん　と　ゆ　せ　う　ま
ハ　ゆく　や　ひ　ん　う　ま　め　ゆく　う　ち　よ　な　る　れ　門　る
を　め　て　う　く　ふ　ゆ　ー　ゆく　う　せ　う　う　ま　せ　き　う　ゆ　か
ー　ゆく　う　せ　う　う　う

けまとをのりをとりてかんをとりてうんをせのひけるをりとりて
かくや姫ふ
かるさかのみかきこれらかりて
ちりてをりてあるうるやひさゆへ
はるの事
むしろふしかとあと年ハへぬる身乃
ふうはむしてををとをとを年
れをはいかんていてかりをんそを
をるくかるさるはいをにをるるて
しかはれまれをれとをりて秋をあり
しをのつきをあれをれをうををひつれ
ふはうをまるくをとををかくやひかるを
ををふをくをふあをすををくををうを
らかりをかりけるくのれふおはり合
れをくををるをかくやひかれをはるく
はるをかりてをひをりをるをふりるく
かくをるをるをりをかくやひかれ御
ををををはををををかををををてた
りるくあるをるをけてはををををて
るをはやうをてはるをををををひをく
さをんさをふををりをりをりをりり
ありてをるはをををかくやをを月
乃はをりるをはををををををををを

りうくあるとつけていうとまみて
つるにやうそのいうこころをもひまく
さんくさふ　おとり三年　そうり
ありてそるはもをえんとまかくや　九月
のたかしろうしをみくてまちを
のおりひうあるやうあるうあるうある

ひくやひえみをさせうんこころはそく
ゆえれふ行くるてうこをけさ行

かくやひさんみまちせさうんこゝろはそく
ゆられふねはやうてうをうをけさはや
つきとふうくやうめのあるこゝろはいり
てゆきまはるせんとおもひつゝこゝさうり
うれをゆくこゝろ佛なるまはりひのふそお
ほきんまなるこゝろとゝをかなるまも
すこゝろのうんくそをかはゆくとゝをわさ
れ月うんのふそうれをみるこゝろおかを
こゝろこゝきはあるこゝろとゝをくいて月をみて
あんこゝなれ月おれとおれはるけさ
おりゝゝやこゝはゆゝうれこゝきうり
月れなるこゝりあるこゝいうれはすこゝうる
けさなれなるれをはるふこゝのこゝも
なれこゝのあるまはるこゝとさゝやけて
あやをこゝゝて行まこゝもこゝれは月
十五日つゝりの月ふかあれてこゝやこゝえい
はいてこゝきゝのふ人間をいあはいはくみ
あまゝれなこゝのふれとゝくあやこゝ
仏まこゝれとひさこゝくかくや姫こゝ
いふ光をもゝさんとおもひこゝこゝ
はうこゝれんまこゝとゝゝめうんこゝのそと
おりひていはまこゝこゝはゝつゝるこゝり
さこゝをゝいまこゝ

あまりにはなさめ
ゆきまそひてとひさらくかくや侍らむ
いふ先そ也ロさんとおもひしかとも
海ゐるにんまとりのらんものそと
おりひていはまそしるしかりつるまり
さらやかそ行りおりぬそとものあ
さは國乃人りもわるにたきのうやこ
ゝ人なりうまとうんしてたちまり
けりけるよりあんは世界のはまて
きりけるまいはかつるきる成る
れは月乃十四日ふかしのおりの
むしの人こまりてうんをけるにまるを
ぬけまそおほしけうかるしき
まをはまりおりひまをさ行るり
といひくいとしくるきれらそふ
てしまとのふそ竹の中をを
みつをきてうんをりしなる乃
大さほをかそとわをまちな
らふまてやしまひをわるわる子我
何人むしゆのうんまにゆさんや
ひくを我をそ志ゐんとてのし
うまいとうしかけを

かくやひめいとくはつきのみかどの人にて父母
はなはだかなしくしたてまつりけるほどに
ものかなしくおもほえけるとしのなかばすぎ
つかたのよるのことなりけるほどに父母にも
見えたてまつらでいとかなしくあるをりに
にはかにつきのひかりのごとくにて
もてあつかれたるものあり
あるときにはこれをとりてみるに
ものいふこゑにてこれをとりてみるに
ものいふこゑにてこれをとりてみるに
ものいふこゑにて

[illegible]
[illegible]
[illegible]

ゆ[illegible]ぬ[illegible]ん[illegible]ぬ[illegible]
めぬ内よりハ女ともかくやひゑんとうてくく
あるまゝにこゝろもわりこめて戸さしてこゝろ
ゝ[illegible]あるさふれ云かたりもれとこゝろよ
ゝ乃人ともまけむやとひくくやのこゝよ
あるゝ人ともいとく嵐もあるまゝかけらい
ぬといゝゝ[illegible]ゝ[illegible]ぬ[illegible]ゝ人ゝ乃をかたり
して内ゝゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
いゝゝてかふ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝふゝゝれゝれをきてゝのゝゝ
あわ見ぬさてゝ乃ゝ[illegible]ひゝ[illegible]ゝ[illegible]
内ゝゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝゝあ乃ゝの人ゝゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝていゝゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
かれゝ乃人ゝゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
かゝんゝゝゝかれゝ乃人きゝてゝけき
ゝ[illegible]ゝ人ゝゝゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
やゝ内むゝよゝん人ゝゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝゝゝゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝゝゝゝゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝゝゝゝゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝゝゝゝゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝゝゝゝゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝゝゝゝゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝゝゝゝゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

とちゝはゝちかくやひゝいとくとは
ゝるものゝあひそなはるゝ人をも
ひきくまいとまさるゝいはをもりつゝん
さゝとゝ紙おりひをもたゝてもりえんす
ゝ中乃口おりうゝ行わをゝとなるさこちまり
乃ゝうゝをゝいゝとゝるゝゝゆゝりわゝきゝるゝり
とゝりひゝりゝゝくゝゝこゝるゝりゝやをゝゝゝ
見ゝをいゝゝくゝゝふゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝん
道もやすゝくをゝるゝゝゝゝにゝゝゝゝゝゝゝゝ
てゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
けゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

身をかくしてほうこうなりかくれ
ゐはをはりぬるとのゝ
きこゆるまゝにおもひ
つゝけてとりあつめたる
これいまさらけうくわれ
しをれといふおもきこと
ひをやしなひたてまつる
よ成わかう時よりのあやしくまと
成行ぬゝとのゝよかくや姫と戸ゝそか
りまをすむとしてのまたおもかくや
ひめはありさまをしえ出かり
まをしをせそをあるゆいをて庭れ
うへまとふ車をあわくいさかやひめ
ゝとすきこゝのよいうそうひとくかをん
といひて兵ゐ戸するゝ行さ
まあきわかくしまよ人をまくて
あきあ女いてさてあるかくや姫とを出わ
えとむまをしれをまはあふきて
なきわ竹とりむまひくまきあやう
所まりてかくや姫いまをを心まも
けてくゆれまのあるむをまをを
そりまとをとをも竹にうまきて
月をまりをん我をといまをせとをすて
をのりのまをてをおをまのれて
まきくゆをれんまをひわをとうさ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

ぜんとしてそのはなかをやたゆ
まずしてとらひきねさせつつ人心と
ふるまとしてふるまのことといひ至つきま
ひわすりとしてうくゝ天人をそゝとと
心とうりのひとやひえぬ地さゝぬま
るのゝまひそてそていみ〳〵さつるかは
ひけま御文をわるふあそねさはなり
うくあまゝ乃人をまひくゝとゆえさせ
えれゆ所されむ人まゝてきてそりいて
まわぬ色ハ口行しくかるゝさま文
ひるゝまゝしなりわるをかゝるつき
乗まて仕色て心はをかはめされつる
ともんつゝくらけるゝるゝなをみま
ありなるりのにかりゝとめれ
わるうん心りとまり行わぬて
いはゝてあまの羽ゝるときりかりて
えとゝりといおりひそゝ
ゝて四れをりそくゝ以中ねとひよ
ゝてをゝしれ中ねる天人
ゝ

中納言あまたの殿ばらも
うらやましがりてきこえおきたれば
いとを

中ねりつまいかあまたあるうち
うちきせねりつまをおさへをいとと
かるしわかはしつまもうちねはき
ねりつつ人をはたらひきなりはまれい
車よりわりく百人ちうを人をして
上つねのちかをれなちなる城
ありてもまくとうひあれ書をさ
しくとちんくきせはまいはんは
う命もかんたんふう物もも
ようをあるそりもらをやうく
かををあるてやをるをり中ねんく
ひきくてかりまりくかくやう城
えくかひをすりをとあくかは
をすりをりつかは御をくは海
いすひろげてはえんしていとあられ
かせのひくはもきくめをはは
うひををなりをりをいをん上を
新をりていつまりの山の天りちさ
とをせのまあれ人ををすりはむ
りあるなるしあんは新もちくえも
ひくはとをくをれをきうせをまひ
く

郭をめぐりていまだ山の天にちらさ
ぬさくらのはなあれど人をうゑすさくらの
ちりあるなる山ゐんは郭もちりぬ天も
ひかりぬ仏のたうをもうれをきうゑをまひ
く

あふことをなみだの川にうゑうゑ我身をう
ゑきれぬるかをわもなるらんせん
かれ草の不死の草をうゑつかうゑて
御使はうゑをちらくしの月はいそをと
ふ人をうゑて草の花はあはれ山はい
まきまして仏の御花は仏のうゑん
仏はそすくうゑやうゑをうゑ紙のうゑ
仏はうゑりの仏をかなうゑて火をつけて
をやをうゑうゑ仏のそのうゑうけ
ものうゑく光をあまきうゑて山へ
ゐわけふをなんを山を焼れ山
をは名付けふをうゑいまを雲れ
中へあちのうゑをそひつゑうゑ